

氏名＝イオン出店問題を考える前沢・南町の会世話人代表 菌部英夫

住所＝東京都東久留米市前沢2 [REDACTED]

対象事業の名称＝イオン東久留米ショッピングセンター（仮称）建築事業
環境保全の見地からの意見



私は東久留米市前沢2丁目に住んで6年。それ以前は南町4丁目、所沢街道沿の「ガスト」前に8年間住んでいました。東久留米市に移り住んだのは、水と緑など自然環境が残っており、充実した保育、教育環境があったからです。

イオン東久留米ショッピングセンター計画については、2006年春から本格的に始まった住民説明以降、大きな関心を持ち、「イオン出店問題を考える前沢・南町の会」を立ち上げ、イオンによる3度の説明会を地元で実施しました。また、同規模のイオンショッピングセンターの視察などを行いましたが、イオン出店による各地の自然環境、生活環境の激変に対して、多くの疑問や不安を募らせてきました。詳しくは以下のホームページを参照ください。

<http://members.jcom.home.ne.jp/kurumeweb/hkaeon.html>

この度の、環境アセスメントについては、2006年春から2年以上もかけたものであり、イオンによる説明会にも参加し、どのような環境影響評価がなされているかと注意深く読みました。結論的には、該当する地域で将来にわたり暮らしていく住民として、自然環境破壊、生活環境の激変は必至であり、イオン東久留米ショッピングセンター（仮称）建築事業の中止を強く求めます。

以下、環境アセスに関連して、その理由をのべます。

■環境アセスメントの根本をゆるがす問題への対応を

まず、つぎの点は東京都の環境アセスメントの根本をゆるがす著しい問題であるので、即時イオンへの厳しい指導を要望します。

1) 住民説明会が都条例の趣旨に反して説明会会場として不適切です。関係地域内で説明会を開催すべきです。

2) 出店予定地までの「出入口」となる市道110号線の建設のメドは立っていません。この道路が完成しなければ、今回の環境アセスは意味がありません。つくりなおすべきです。

「10.1 修正の経過」で、「工事の開始時期に東3・4・18号（市道110号）が整備され工事用道路として使用できる見通しとなつたため」としているが、説明会ではイオンは「来春の市道完成を前提にアセスを実施した。市道ができなければ工事は延期する」とのべました（8月7日、朝日新聞も報道）。市道建設の「前提」がない以上、今回の環境アセスは意味がありません。つくりなおすべきです。

■環境アセスに対する意見

（1）大気汚染

○出店予定地の隣は第5小学校です。南方には南町小学校が、南町保育園、障害児通園施設、特別養護老人ホームも近接しています。イオンでさえ「全国でも、小学校の前に出店

した例はありません」と認めています。この地域に大型ショッピングセンター建設はそもそも無茶な計画で、取りやめるべきことなのです。

○排気ガス（NO₂）は大気汚染の主犯とされ、ぜんそくの症状を悪化させます。東久留米の小学生の気管支ぜんそく罹患率は現在でも高く自然有症率の2.5倍です。環境基準は0.06ppm以下ですが、予定地周辺は市内最悪でその基準をこえています。ここに一日1万台こえる車を誘導し、巨大駐車場をつくるならば健康への影響は深刻になることは容易に予想されるところです。しかし、今回のイオンの調査はあまりにずさん、お粗末です。抜本的な再調査と予測が必要です。

○「大気汚染評価が民間のデータとちがいきすぎる。信頼できない」と説明会で指摘されましたが、イオンは「データが何故なのか検証できなかった」とニヤリとしました。イオンが誠実に環境アセスにとりくむとすれば、たった1日の測定でなく、最低でも春夏秋冬の各季節にわたり一週間程度のデータをとるなど、まともな現況調査をまず行うべきです。

○カーナビが発達し普及している現在、交通渋滞が起これば瞬時に生活道路に渋滞を「避ける車」が殺到し、この地域の道路事情では、そこそが渋滞することは必至です。イオン出店による大駐車場の排ガスだけが地域の問題ではありません。生活道路に渋滞して排出される排ガスの影響は甚大です。

こうした問題に対して、2年前に私どもはイオンに「そこに住む住民生活の視点にたつての交通シミュレーションをともに考えたい（そういうシミュレーションソフトも開発されている）」と意見したにもかかわらず、以後回答はなく、今回の環境アセスではいっさいふれていません。イオンの開店により、平日7629台、休日13998台の車が増えた場合、地域のどこで渋滞がおき、それによって排気ガスがどう排出されるか、それを予測し、その打開策を具体的に示すことは、当然のことではないでしょうか。誠意をもって再調査すべきです。

（2）騒音・振動が環境に与える影響

○所沢街道沿いでは現況でもダンプやトラックがとおると大きな振動があります。引っ越した最初の頃は地震かとおもったくらいの振動があるのです。

しかし、工事中車両の走行や建設作業の騒音レベルは「すべての地点において規制基準を下回る」とあり、まったく信用できません。「環境保全のための措置」とありますが、そうされなかった場合、被害者は地域住民です。措置されなかったときの「担保」は地域住民の参加した第三者機関による調査点検です。「絵に描いた餅」では住民は納得できません。イオンは環境アセスで、住民が納得できるための「担保」を提示すべきです。

○市道110号線が開通しない場合の突貫工事は最悪の事態を生じます。市道が開通しない場合の工事はすみやかに中止すべきです。

（3）地盤・水環境

○東久留米は湧き水が流れる水と緑の町です。付近を流れる落合川はホトケドジョウをはじめ貴重な生物も豊富です。都内でも例のない「里山」風景のすぐれた自然環境は市民の誇

りです。しかし、「地下水位に達することはない」としながら、打ち込む杭は地下水脈に達することを記述し、地盤強固剤などの影響についてはいっさいふれていません。これではまったく信じられません。

○「7. 2. 5 生物・生態系」では、計画用地のみを対象としながら「計画地周辺の生物・生態系に影響を及ぼすおそれはない」と断じていますが、自然環境を恐れぬ傲慢な指摘です。巨大なショッピングセンター建設に関して生じる地下水、騒音、景観の変更による生態系に及ぼす多面的かつ科学的な調査が必要です。

(4) 電波障害

○「計画建築物の存在により、これらの障害が生じることが予想されるが」としながら「電波障害の発生が明らかになった場合には」と対応を先送りするのは無責任です。「予想されるのならば「対応」するのは当然のことで、それをしようとしなないのは不誠実です。

(5) その他、地域住民の日常生活の環境に及ぼす影響

○高齢化社会は急テンポで進行しています。東久留米も例外ではありません。深夜営業する巨大ショッピングセンターは、車を運転しない（できない）交通弱者にとって、不便で危険きわまりません。徒歩や自転車で安心して生活に必要なものがそろう地元商店街は、高齢化社会のなかにあっても共生できる地域の財産です。イオンができると地元商店街が消滅し、イオンが撤退するとそこにはなにもなくなる。これは全国各地でおこっている事実です。説明会で「自助努力の問題で、お互いがんばるといふこと」とイオンは答弁しましたが、じつに無責任な発言です。地域住民は、傲慢な大型店舗でなく、地域で共生する小さな地域商店街の継続を切望しています。

○不安でたまらないのが、子どもたちの生活環境の激変です。

イオンは「ゲームセンターは入らないが、現代版遊具は入ります」と述べました。営業は開店当初は夜 11 時まで。しかし、すぐに 24 時間営業は容易に予想されます。イオンが出店した各地では、トラブル、万引、恐喝など「イオン出入り禁止」を宣言する学校もあると聞きます。まして、出店予定地の隣は小学校です。こんなところへのイオン出店は断じて認められません。

<最後に>

イオンは説明会で「不祥事は誠にもうしわけないが、事業内容は違うので信頼してほしい」とイオンの契約する建設コンサルタント「パシフィックコンサルタンツ」（ベトナムなどで贈賄容疑で新聞一面で問題が報じられている PCI（パシフィックコンサルタンツ・インターナショナル）と同じ会社）に関して述べました。このコンサルは、昨年から今年にかけて東久留米市議会を紛糾させ、市長や副市長などが処分された事件で、地区計画策定業務を市から委託された業者でもあります。こうした業者に丸投げして、つくったずさんな環境アセスは、信じることはできません。

イオンが出店は反対です。もし、イオンが出店を強行しようとするならば、すみやかに、住民が納得できる誠意ある環境アセスの再作成、提出、地域での説明会を求めます。